



企画展

Museum Collection Exhibition

優しいほとけ・怖いほとけ

Merciful Bodhisattvas, Terrifying Deities

2019年 7月25日(木)～8月25日(日) 根津美術館 NEZU MUSEUM

「優しいほとけ・怖いほとけ」展は、飛鳥時代7世紀から江戸時代17世紀に至る仏教絵画・彫刻の優品約35件を展示し、ほとけのさまざまな表情とその意味を考える展覧会です。

ほとけは、密教の「三輪身」の考え方によれば、その役割から三種類に分類することができます。釈迦如来に代表される「如来」は、伏せ目がちの表情で静かに坐り、厳かな雰囲気を漂わせています。如来は、「真理そのもの」(自性輪身)を意味しています。

そして、この尊い教えを人々に伝え、苦難から救い福樂を与えるほとけ(正法輪身)が「菩薩」です。さまざまな菩薩の中でも、優しい眼差しの観音菩薩や普賢菩薩は“慈悲のほとけ”の典型といえるでしょう。

三番目の忿怒のほとけには二つのタイプがあります。ひとつは、密教が説く「明王」。不動明王、大威徳明王、愛染明王にみるように、明王はたくさんの目、顔、腕をもつ不思議な姿で、さまざまな武器を手にしています。それにより、教えに従わない者を屈服させ、怨敵を調伏するのです(教令輪身)。怒りの表情を示すほとけには、甲冑に身を包んだ武将の姿で周囲を睥睨する「天」もいます。その代表である四天王(持国天・増長天・広目天・多聞天)は、外敵の侵入を撃退する頼もしいほとけたちです。

尊い釈迦如来を礼拝し、優しい観音菩薩に救いを求め、迷いや邪念を不動明王の猛火に投げ、毘沙門天に安堵を頼む—それにより人々は現世での健やかな人生を願ったのです。

左 観音菩薩像(阿弥陀三尊来迎図部分) 日本・鎌倉時代 14世紀 根津美術館蔵

右 愛染明王坐像(部分) 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

<http://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZUMUSEUM



優しいほとけ



かんのんぼさつぞう
観音菩薩像
 あみださんぞんらいごうず
 (阿弥陀三尊来迎図 部分)
 絹本着色
 日本・鎌倉時代 14世紀
 根津美術館蔵

この世で善業を積んだ者が死を迎えるとき、阿弥陀如来は、観音菩薩、勢至菩薩とともに現れ、死者の魂を蓮華に載せて西方浄土へと運ぶ。ほとけたちの柔和な表情が、死の恐怖から、極楽往生の喜びへと誘う。



(部分)

ぼさつりゅうぞう
菩薩立像
 木造彩色
 日本・平安時代 12世紀
 根津美術館蔵

優しい眼差しを投げかける慈悲相の菩薩像。ゆったりとした体つきや、薄く整えられた衣の表現は、平安時代後期の作風である。阿弥陀如来の左脇に立つ観音菩薩であったか。

厳しいほとけ



重要美術品
 びしゃもんてんずぞう
毘沙門天図像 (部分)
 紙本墨画淡彩
 日本・平安時代
 12世紀
 根津美術館蔵

仏教世界を守護する四天王のうち、北方を監視するのが多聞天の任務である。単独で表す場合は毘沙門天とよばれる。筋肉の隆起を誇張し、目を大きく表わし、周囲に睨みを利かせる表情である。



(部分)

びしゃもんてんりゅうぞう
毘沙門天立像
 木造彩色
 日本・鎌倉時代 14世紀
 根津美術館蔵

手のひらに多宝塔をのせ、戟を手にした武将が、邪鬼を踏んで立つ。北方を守護する多聞天は、単独像の場合毘沙門天とよばれる。周囲を睨む目に、玉眼の技法が効果的である。

怖いほとけ



初公開

あいぜんみょうおうざう
愛染明王坐像 (部分)
 木造彩色
 日本・江戸時代 17世紀
 根津美術館蔵

愛染明王が全身で表わすのは、人間が抱える煩惱のすさまじさである。真っ赤な体で、3つの目を見開き、怒りに髪を逆立たせる。人間の負のパワーを転化し、和合や良縁を叶える敬愛法の**本尊**として信仰を集めたほとけである。修復を終え初公開。



重要美術品
 こんごうやみやみょうおうざう
金剛夜叉明王像
 (部分)
 ごだいそんざう
 (五大尊像のうち)
 絹本着色
 日本・鎌倉時代
 13世紀
 根津美術館蔵

人を喰らうおそろしい夜叉(魔神)であったが、仏教に改心し、その絶大な破壊力を悪を打ち砕く力に変え、仏法を守護する明王のひとりとなった。3つの顔にはそれぞれの5つの目をもつ異様な顔立ち。

その他のおもな出展作品

重要美術品	観音菩薩立像	銅造鍍金	飛鳥時代	7世紀	重要文化財	大威徳明王像	絹本着色	鎌倉時代	13世紀
	増長天立像	木造彩色	平安時代	12世紀	重要文化財	愛染明王像	絹本着色	鎌倉時代	13-14世紀
	不動明王立像	木造彩色	鎌倉時代	13世紀		壬生寺地藏菩薩像	絹本着色	鎌倉時代	14世紀
重要文化財	普賢十羅刹女像	絹本着色	平安時代	12世紀	重要美術品	矢田地蔵菩薩縁起絵巻	紙本着色	室町時代	15世紀

すべて根津美術館蔵

<同時開催展>

鍋島の小品

鍋島焼のなかでも小皿や小鉢などの小さな器は、高いデザイン性と形の美しさが際立ちます。佳麗な魅力が溢れる鍋島の小品をお楽しみください。



「猪口」と呼ばれた会席用の小鉢は、鍋島藩から将軍家への例年の献上品に含まれていたもの。緻密な文様構成と端正な形に、心惹かれるものが多い。

こぼち
小鉢三点 肥前 鍋島藩窯
 3口 施釉磁器 日本・江戸時代 17-18世紀
 根津美術館蔵 山本正之氏寄贈

展示室 5

納涼の茶

真夏の茶会で望まれる趣は、涼しさを感じる道具が取り入れられていること。納涼の茶会にふさわしい季節の茶道具約 20 件をご覧ください。



底が高い位置にあることから「二階香炉」と呼ばれ、茶人・小堀遠州(1579~1647)の箱書が伴う。脚部には透し彫りで蓮唐草があらわされる。

せいじすかしぼりにかいこうろ
青磁透彫二階香炉 龍泉窯
 1口 施釉陶器 中国・元時代 14世紀
 根津美術館蔵

展示室 6

関連プログラム

講演会 「愛染明王の信仰と造形」
 日時 8月17日(土) 午後2時～3時30分
 講師 高橋悠介氏
 (慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 准教授)
 会場 根津美術館 地下1階 講堂
 定員 130名

〈申し込み方法〉 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、
 または往復はがき(1参加者につき1枚)に参加を希望
 される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を
 明記の上、
 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
 根津美術館講演会係宛にお送りください。

※7月17日(水)午前10時より受付開始
 (往復はがきは当日の消印より有効)。
 ※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライドレクチャー 担当学芸員が展示の見どころを解説いたします。
 「優しいほとけ・怖いほとけ」
 日時 8月2日(金)・8月23日(金)
 いずれも午後2時より約60分間。
 講師 白原由起子(当館特別学芸員)
 会場 根津美術館 地下1階 講堂

※毎回開始の15分前より開場。
 ※先着順で定員(130名)になり次第締め切らせて
 いただきます。

特別催事

「茶約をけずってみよう」(事前申込制・有料)

8月24日(土)

第1回 午前10時30分～午後12時30分

第2回 午後2時～4時

講師 池田泰輔氏(竹楽会講師、竹芸家)

※詳細は当館ホームページまたはお電話でお問合せください。

開催概要

展覧会名 企画展「優しいほとけ・怖いほとけ」
 主催 根津美術館
 開催期間 2019年7月25日(木)～8月25日(日)
 開館時間 午前10時～午後5時
 [入館は午後4時30分まで]
 休館日 毎週月曜日(8月12日を除く)、ならびに8月13日(火)

入館料 一般1100円(900円) 学生800円(600円)
 ()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料

前売券 一般900円 学生600円
 ※2019年5月25日(土)～7月7日(日)
 企画展「はじめての古美術鑑賞 一絵画のテーマ」開催
 期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車
 A5出口(階段)より徒歩8分、
 B4出口(階段とエスカレータ)より徒歩10分、
 B3出口(エレベータまたはエスカレータ)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
 お問い合わせ TEL 03-3400-2536(代表)
<http://www.nezu-muse.or.jp>

〈記者内覧会のご案内〉

上記展覧会の記者内覧会は、2019年7月24日(水)午後1時30分
 より開催予定です。ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡くだ
 さい。

次回展

新創開館10周年記念 企画展

美しきいのちー日本・東洋の花鳥表現ー

2019年9月7日[土] - 11月4日[月・振休]



うずらず
 国宝 鶉図
 りあんちゅう
 伝 李安忠筆
 中国・南宋時代 12世紀
 根津美術館蔵
 (*展示替えあり)

美しい花や鳥を題材に、いきものの生命感を描く花鳥画は、ときに吉祥
 をまといつつ、工芸意匠にもなりました。花鳥表現の歴史をたどります。

同時開催: 展示室5 「刀装具 一驚きのわざー」

よながつき
 展示室6 「夜長月の茶の湯」

＜リリース・広報のお問い合わせ＞

根津美術館 広報課: 所, 村岡 TEL: 03-3400-2538(直) E-mail: press@nezu-muse.or.jp

※本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報はお問い合わせください。(2019.4)